

# 安曇野市における神社の景観構成と祭礼を通じた地域づくりに関する研究

平成 25 年 2 月 武藤 由華

## 要旨

### 〈目的〉

農村景観はそれぞれの地域の地形や気候を反映した水田や畑地、生活様式、建築物、祭礼などから形成され、その中でも神社は、鎮守の森や祭礼空間として、また地域の人々の交流の場として農村景観においても重要な要素である。地域づくりや農村景観の維持・保全に貢献することを目的として、安曇野市を対象とした神社の景観構成を分析し、祭礼などの行事の変遷を明らかにする。

### 〈方法〉

対象とする神社は、安曇野市内の全 83 地区の区長及び氏子総代へのヒアリングの結果、71 社となった。対象神社 71 社について、現地調査や Arc GIS・Google Earth を用いて、景観構成を立地形態から分析した。また、祭礼などの行事の変遷を明らかにするため、区長や祭礼の保存会員へのヒアリングや現地調査、アンケート調査、資料による調査を行い、地域が抱える問題や課題を把握する。

### 〈結論〉

対象神社 71 社を調査した結果、安曇野市における神社林面積は約 8000m<sup>2</sup>であり、周辺環境に与える視覚的な影響が大きいことが分かった。また、対象神社の約 70%は、近傍住宅の内部または、近接して立地していた。これは民間信仰として神社の存在が地区の人々にとって心のよりどころとなっていたためである。そのため、安曇野市においては、農村景観の構成としても、地区にとっても、神社の重要度が高いことが分かった。

また、人口減少に伴い維持が難しくなっている地区の祭礼は、子どもたちが楽しむ場、新たな区民との交流の場とすることで、祭礼をきっかけとした地区づくり・コミュニティづくりに繋がっている。祭礼を維持することは、伝統文化の継承だけではなく、地区づくりにおいても重要である。

指導教員 藤居 良夫 准教授